

2021年3月期（2020年度） 第3四半期  
決算説明資料

2021年2月

JASDAQ : 3423

 株式会社 **エスイー**

1. 2020年度第3四半期 連結決算実績
2. セグメント別の状況

1. 2020年度第3四半期 連結決算実績
2. セグメント別の状況

## サマリー

前年同期比～減収大幅増益

新型コロナウイルスの影響があるものの、建設用資機材の製造・販売事業の好調は第3四半期も持続、各利益も全て大幅増加

（単位：百万円）

	2019年度 3Q	2020年度 3Q	増減（増減率）
売上高	16,373	16,249	▲123（▲0.8%）
営業利益 （対売上高比）	483 (3.0%)	718 (4.4%)	+235（+48.8%） (+1.4%)
経常利益 （対売上高比）	443 (2.7%)	738 (4.5%)	+294（+66.5%） (+1.8%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益 （対売上高比）	105 (0.6%)	267 (1.7%)	+162（+154.7%） (+1.0%)

### ・売上高

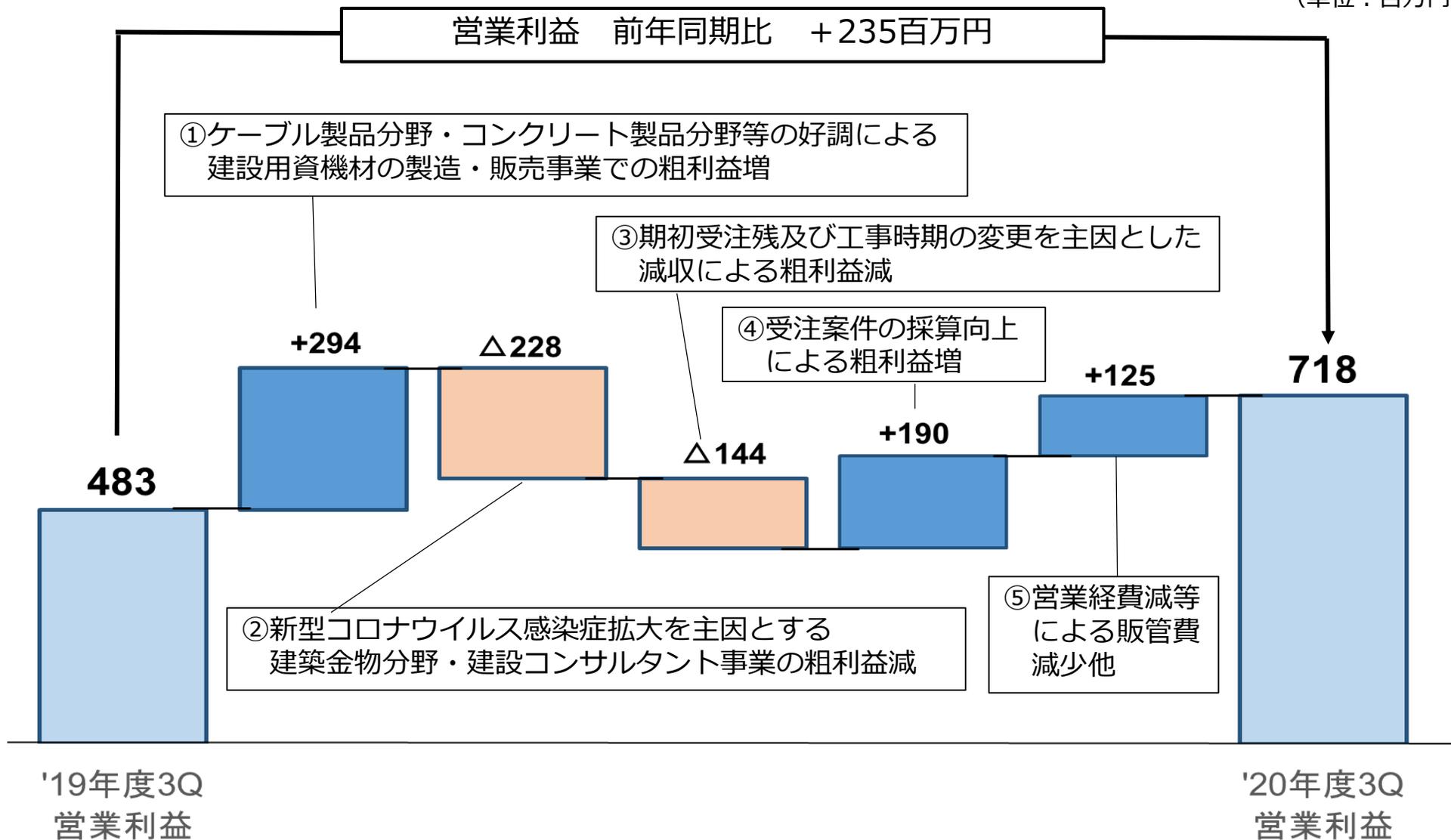
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、建築金物分野・建設コンサルタント事業で大幅減。建設用資機材の製造・販売事業は好調を維持。
- その結果、全体では前年同期比▲0.8%の減収となった。

### ・利益

- 比較的利益率の高い建設資材の製造・販売事業の売上高の増加、及び営業経費減により、営業利益・経常利益・親会社株主帰属四半期純利益のいずれも大幅増益。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、ベトナム・バックダン橋事業運営会社株式の評価損を計上したものの、前年同期比大幅増加。

# 第3半期連結決算実績サマリー（営業利益増減）

（単位：百万円）



- ・当社グループと関連の深い建築・土木市場においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定された工事等が延期・中止になるなどの影響が一部において発生。  
特に内装工事部門は、内装工事が激減しており、今年度の回復は見通せない状況。
- ・海外業務については現地経済活動の停滞や渡航制限により、売上減少等の影響を受けている。  
感染抑制に効果を上げている国から徐々に正常化へ向けた動きがでてくると予想。

## [新型コロナウイルス感染症の影響(前回予測の追加修正)]

セグメント	前回予測(2020年10月時点)		今回予測(2021年2月時点)		
	下半期の状況予測	通期売上への影響予測	現況	追加修正	コロナによる通期売上への影響の修正
建設用資機材	・上半期と同様に公共関連は大きな影響なし ・輸出は若干の回復	▲4億円	・11月時点と大きな相違なし	±0	▲4億円
建築用資材	・鉄骨工事は上半期予定分を計上 ・内装工事は激減のまま	▲8億円	・民間建築の回復遅れ	▲0.6億円	▲8.6億円
建設コンサルタント	・JICA案件は下半期後半に再開本格化、促進に注力	▲3.4億円	・一部案件の次期へのずれ	▲0.3億円	▲3.7億円
補修・補強	・上半期の工事遅延による新規受注減 ・緊急性のない高速道路工事減額	▲1.3億円	・高速道路関連の追加工事減少	▲0.5億円	▲1.8億円

# 2021年3月期連結業績予想の修正

・落橋防止装置等橋梁耐震補強製品、河川災害用のコンクリート製品の販売を中心とした建設用資機材部門の好調等を勘案し、10月26日に公表した2021年3月期連結業績予想を修正（2021年2月5日公表）。

[予想修正内容と要因]

(単位：百万円)

	2020/3期 (実績)	2021/3期 予想				
		10月26日公表	主な修正要因	修正後 2月5日公表	修正幅	
売上高	22,839	22,021	(下記)	22,380	+358	
営業利益	1,064	690		914	+224	
経常利益	1,063	689		922	+233	
親会社株主に帰属する当期純利益	270	228		387	+158	
建設用資機材の 製造・販売事業	売上高	10,803	11,274	+ 耐震補強、コンクリート 製品分野の好調	11,787	+513
	営業利益	834	790		957	+167
	営業利益率	7.7%	7.0%		8.1%	+1.1%
建築用資材の 製造・販売事業	売上高	9,223	8,334	△ <コロナ>民間建築遅延	8,266	△68
	営業利益	433	278	+ 選別受注による利益改善	293	+15
	営業利益率	4.7%	3.3%		3.6%	+0.3%
建設コンサル タント事業	売上高	620	513	△ <コロナ>一部案件の 次期へのずれ	477	△36
	営業利益	△22	△66		△86	△20
	営業利益率	-	-		-	-
補修・補強工 事業	売上高	2,191	1,900	△ <コロナ>追加工事減	1,849	△51
	営業利益	200	161	+ 前年度並みの利益率維持	168	+7
	営業利益率	9.1%	8.5%		9.1%	+0.5%

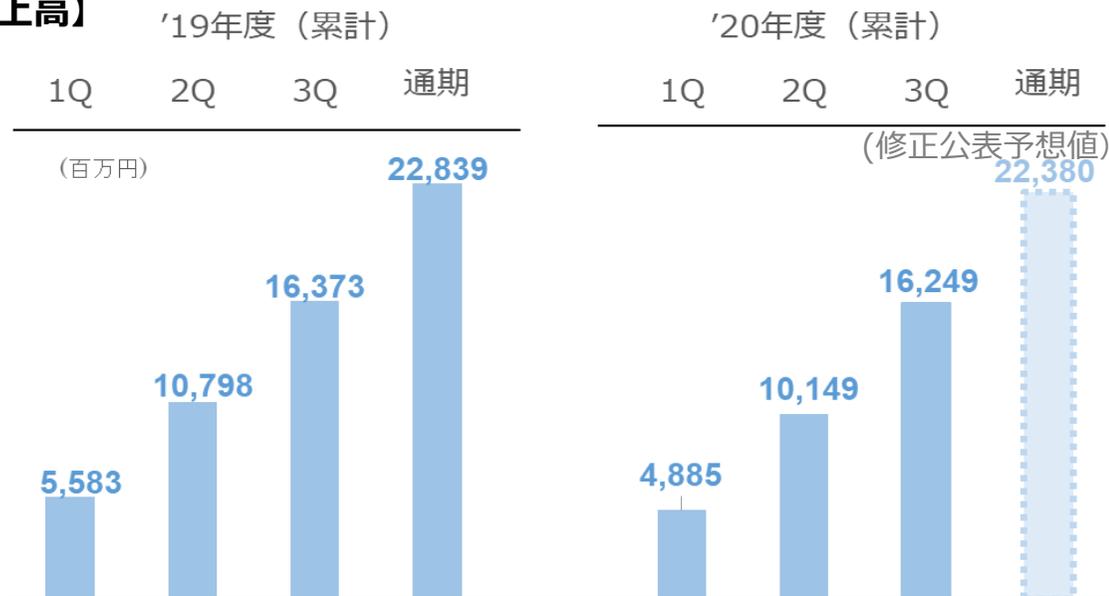


# 第3四半期連結決算実績サマリー(修正公表予想比) 株式会社 エスイー

## サマリー

2020年10月公表の業績予想の利益は3Qで達成、アップサイドを追求できる立ち位置

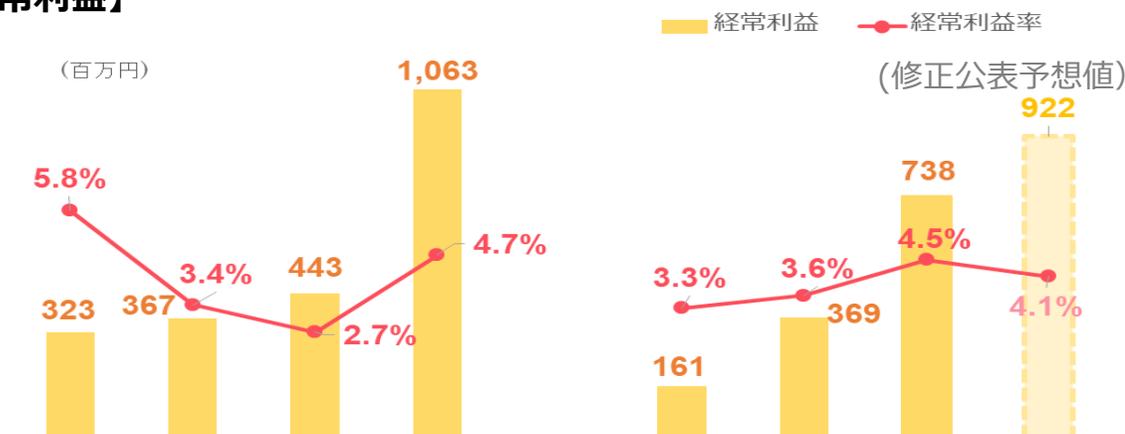
### 【売上高】



### ・売上高

- 建設用資機材部門の耐震関連やコンクリート製品が、他セグメントの新型コロナウイルスによるマイナス分をカバー。4Qも同様の構図が続く見込み。

### 【経常利益】



### ・利益

- 比較的高い利益率の建設用資機材の売上高の増加および採算改善・経費節減の効果により、業績予想値を修正。
- 利益率の低下が見込まれるものの、新型コロナウイルス感染症の影響を除けば、実質前年度を上回る利益額を確保できる立ち位置。

# 連結貸借対照表サマリー

## サマリー

設備投資と手許流動性を厚くしたことにより総資産及び有利子負債は増加

(単位：百万円)

資産		負債			
2020年 3月末	2020年 12月末	増減	2020年 3月末	2020年 12月末	増減
22,031	22,848	(主な内訳) +939 現金及び預金	13,704	14,442	(主な内訳) +431 その他流動負債
		△708 受取手形及び売掛金			+410 短期借入金
		△171 電子記録債権			△175 社債及び長期借入金
		+367 在庫 (商品・製品 ・仕掛品・原材料・貯蔵品)			リース債務
		△512			+738
		+143 その他流動資産			純資産
			2020年 3月末	2020年 12月末	増減
		+569 流動資産	8,326	8,405	(主な内訳)
		+306 有形固定資産			+267 親会社帰属四半期純利益
		△58 無形固定資産 ・投資その他			△299 株主配当金支払い
		+817			+115 有価証券評価差額金
					+79

	2020年3月末	2020年12月末	増減
運転資本 (百万円)	5,115	4,426	△688
有利子負債 (百万円)	5,470	5,810	+340
純資産 (百万円)	8,326	8,405	+79
自己資本比率 (%)	37.6	36.7	△0.9
D/Eレシオ (倍)	0.66	0.69	+0.03

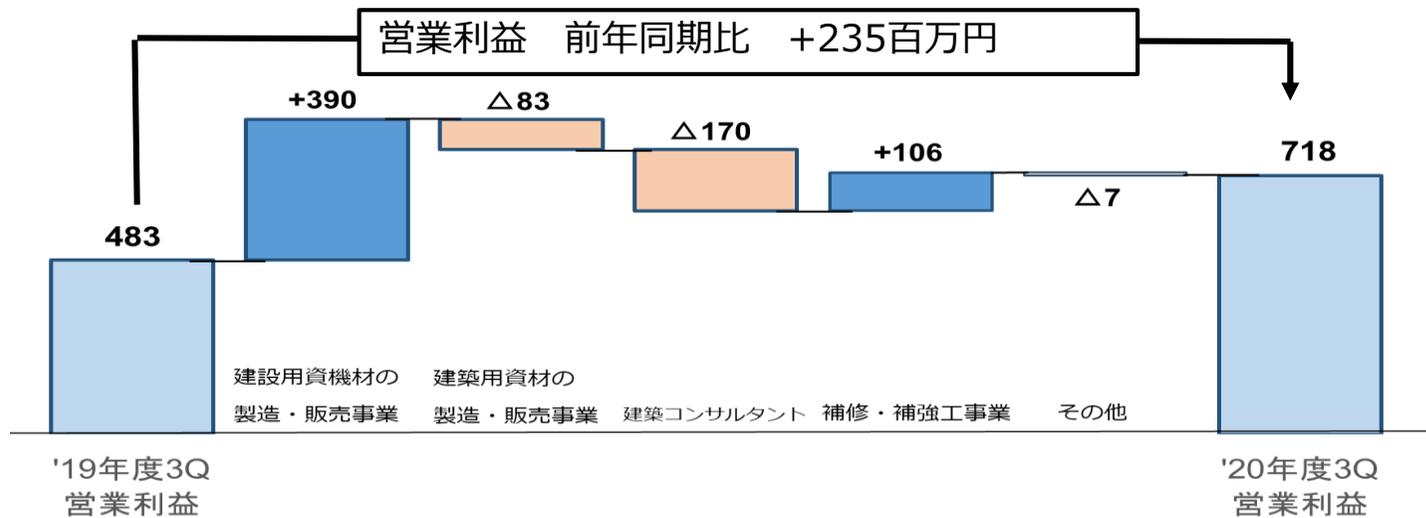
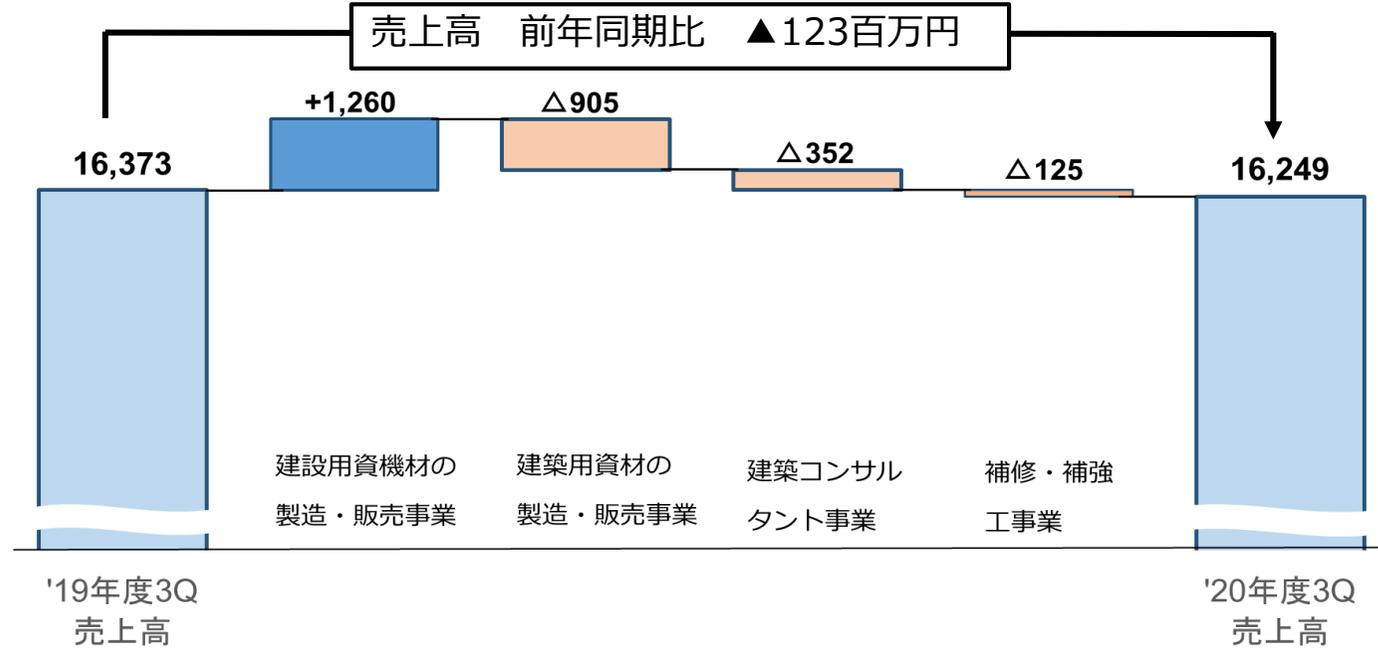
①前年度末にかけて積み上がった売上債権の回収

②手許流動性を厚くするための短期借入金の増加  
設備投資 (機械) によるリース債務の増加

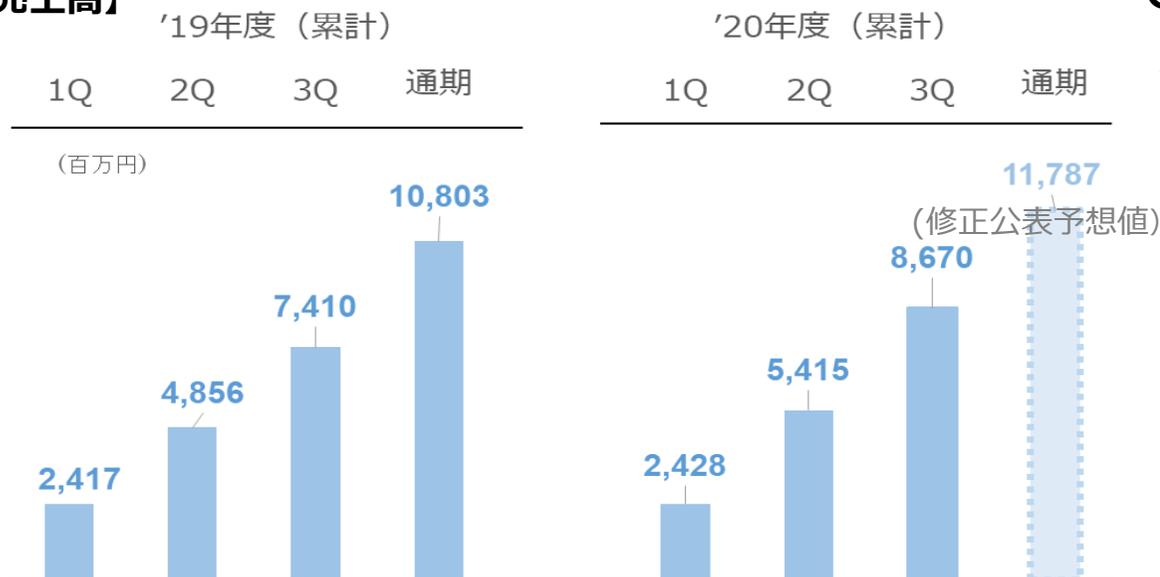
1. 2020年度第3四半期 連結決算実績
2. セグメント別の状況

# セグメント別増減（前年同期比）

（単位：百万円）



## 【売上高】

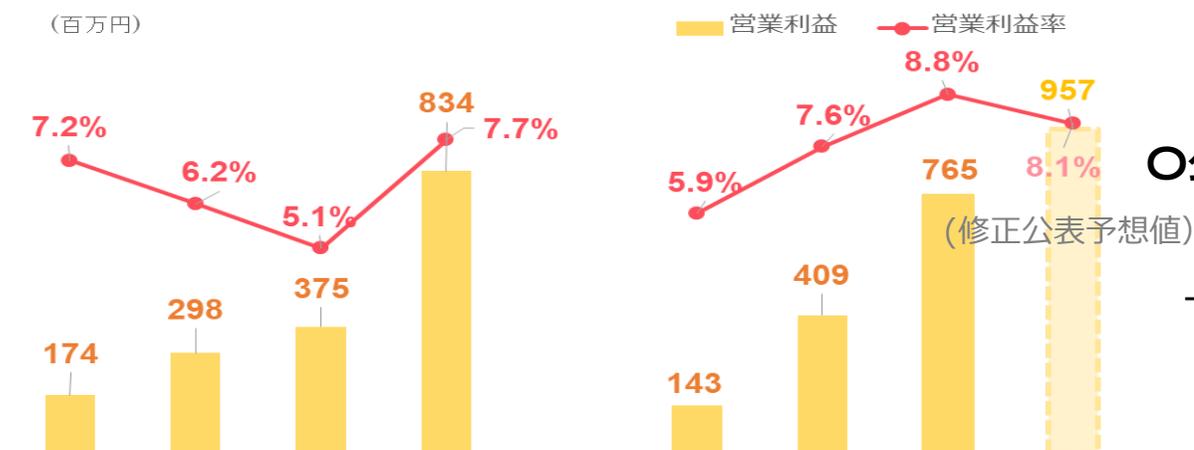


## ○前年同期比～増収大幅増益

### ・売上高

- ケーブル製品分野『グラウンドアンカー』及び鉄鋼製品分野『KIT受圧板』の豪雨災害対策工事を中心とした製品販売、落橋防止装置等橋梁耐震補強製品の販売、コンクリート製品分野での河川災害用ブロック等の販売が好調。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、海外向け資材販売が低調だったものの、全体では前年同期比17.0%増の増収。

## 【営業利益】



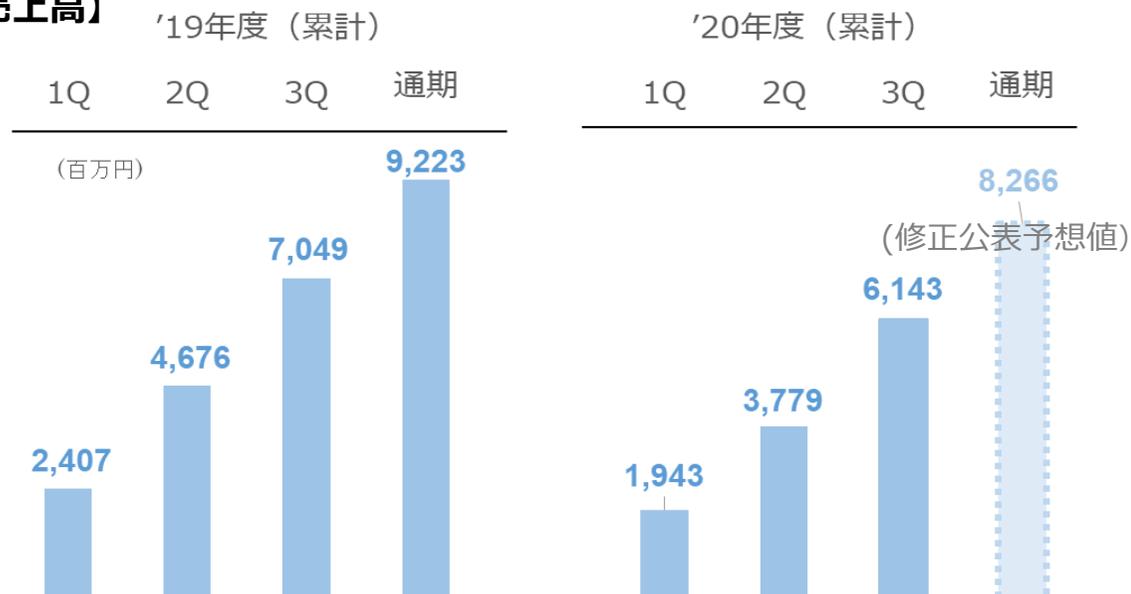
### ・利益

- 増収効果及び営業経費の減少により前年同期比104.0%増の大幅増益を達成。

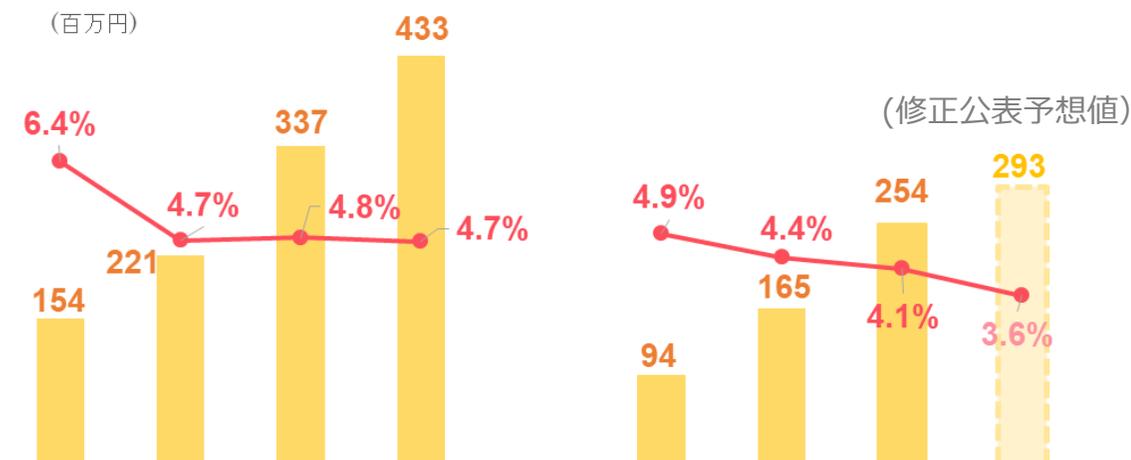
## ○公表予想比～好調を維持、引続き採算改善・経費節減に注力

- 海外向け以外は好調を維持。引続き採算改善・経費節減に注力。公表予想値は十分可能な状況。

## 【売上高】



## 【営業利益】



## ○前年同期比～減収減益

### ・売上高

- 建築金物分野において、新型コロナウイルス感染症の影響により内装関連工事が激減、吊りボルト等の売上が大きく落ち込んだ状況が継続。
- 鉄骨工事分野は、期初受注残が前年度より少なかったこと、今期案件も新型コロナウイルス感染症の影響により工期がずれ込んだことにより減収。

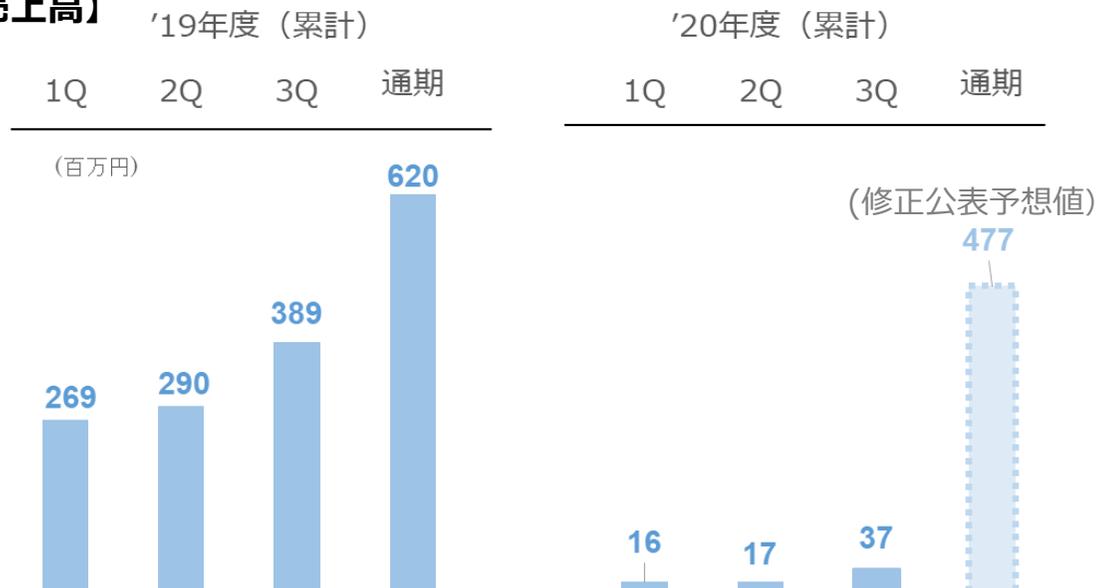
### ・利益

- 減収の影響が大きく、採算改善・販管費抑制でカバーを図るも、▲24.7%の減益。

## ○公表予想比～鉄骨工事は改善傾向、採算は厳しい状況

- 建築金物分野は新型コロナウイルス感染症の影響による落込みからの回復は期待できず、利益重視の対応を継続。
- 鉄骨工事分野は漸く動き出すが、受注競争が激しく、採算に留意し対応。

## 【売上高】

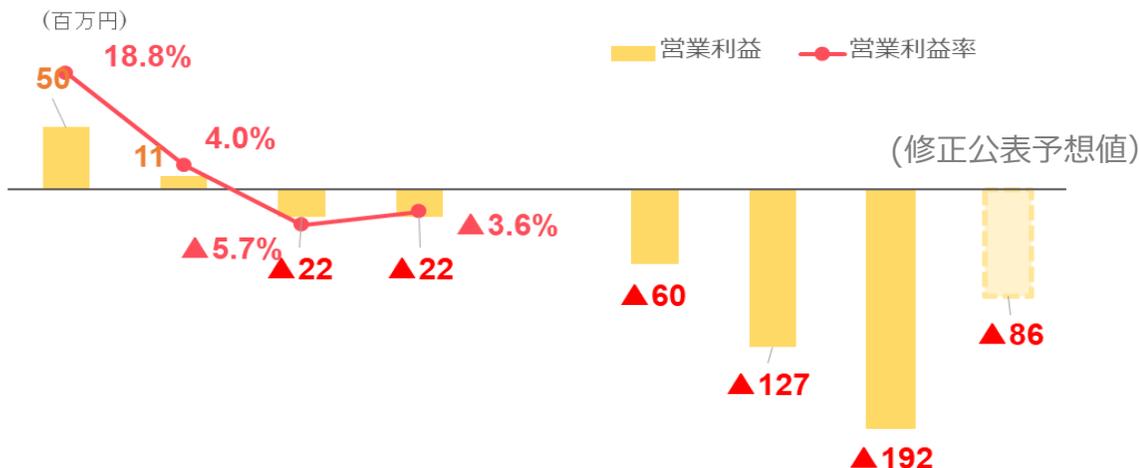


## ○前年同期比～大幅減収減益

### ・売上高・利益

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で海外現地活動の中断及び来期への繰越しが発生し、ほぼ売上がたたない状況。
- 受注拡大、国内BIM/CIM事業に注力。
- 上期の遅れを可能な限りカバーすべく工期再開時の迅速な対応を推進。

## 【営業利益】



## ○公表予想比～4Q以降の回復を見込む

- JICA関連業務の再開が売上に寄与するのは4Q以降となる想定。
- 見込み案件の確実なクロージングにより、4Qでの売上・利益の大幅挽回を図る。

## 【売上高】 '19年度（累計）



## '20年度（累計）



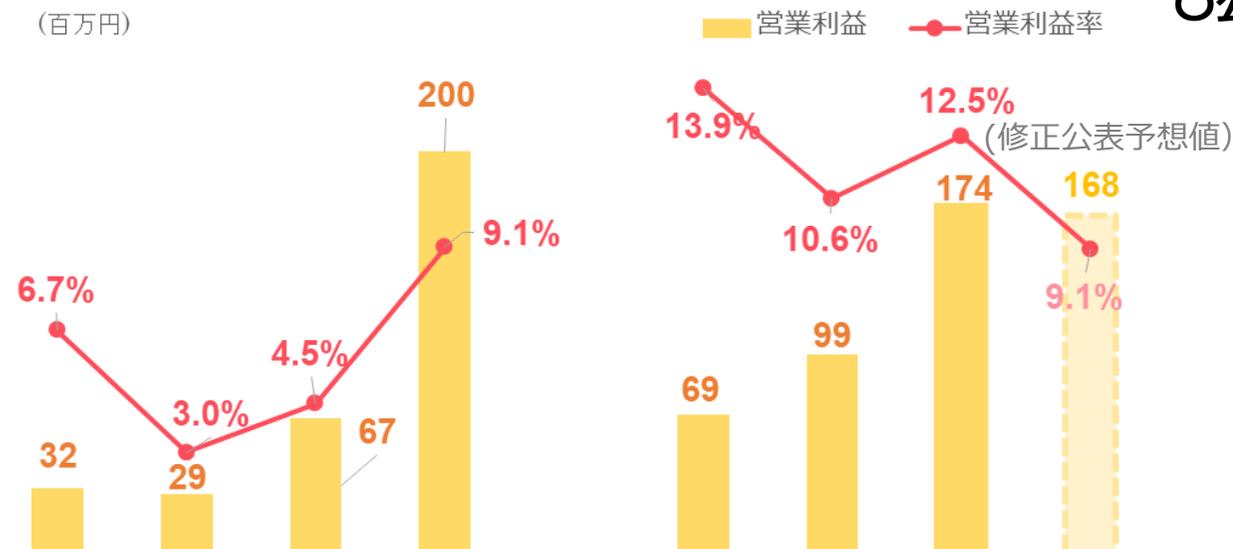
## ○前年同期比～減収大幅増益

### ・売上高・利益

- 新型コロナウイルス感染症拡大による工事中断があったものの、期初受注残を順調に消化。但し、3Qの売上に影響する受注残が前年同期比少なかったため、前年同期比では減収。
- 新規受注は豪雨災害等で工期調整が必要になり、やや苦戦。
- 採算重視の選別受注の効果や追加工事の増額により大幅増益となった。

## 【営業利益】

(百万円)



## ○公表予想比～予想値では利益率は大幅低下

- 売上高・利益ともに基本は堅調だが、上期の工期調整の影響で受注は苦戦。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、発注元が追加工事を厳しく選別、利益率は低下傾向。更に、過去工事の追加工事も見込まれ、4Qの利益率は大幅低下を予想。
- 結果、通期では前年度並みの利益率は確保する見通し。

---

## 将来見通しに関する記述についての詳細〔ご参考〕

当資料は、あくまで株式会社エスイーをより深く理解していただくためのものであり、当資料に記載されたいかなる情報も、当社株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイス目的で作成されたものでもありません。

本資料に記載されている当社の分析、業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、現時点で入手可能な情報に基づく見解や将来の業績に係る見通しであります。これらは現時点で入手可能な情報に基づき株式会社エスイーの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの分析・業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。

---

**International Engineering Maker**

 株式会社 エスイー